

教科別授業改善推進プラン（理科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ノート指導を統一することで、実験結果をもとに考察を書く力が高まってきた。
- ・友達と話したことをもとに、考えを広げたり深めたりすることができてきた。

(2) 課題

- ・ノート指導を統一することで、「問題—予想—方法—結果—考察—まとめ」の一連の流れで学習することを継続して行い、見通しをもって学習することができるようにすること。
- ・結果と考察を区別して書くことができるようになってきている。しかし、板書の内容をノートに書き写すだけで、自分の考えを書くことが難しい児童もいる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(観点別経年比較)

評価の記号は、平均正答率が目標値を「△…上回っている」「▼…下回っている」

	令和6年度結果	令和5年度結果	平成4年度結果
第4学年	領域別 生命・地球▼ 物質・エネルギー≡ 観点別 ・知識・技能▼ ・思考・表現・判断▼ ・学びに向かう人間性▼		
第5学年	領域別 生命・地球▼ 物質・エネルギー▼ 観点別 ・知識・技能▼ ・思考・表現・判断▼ ・学びに向かう人間性▼	領域別 生命・地球▼ 物質・エネルギー▼ 観点別 ・知識・技能△ ・思考・表現・判断△ ・学びに向かう人間性▼ (第4学年)	
第6学年	領域別 生命・地球△ 物質・エネルギー≡ 観点別 ・知識・技能△ ・思考・表現・判断さ≡ ・学びに向かう人間性≡	領域別 生命・地球△ 物質・エネルギー△ 観点別 ・知識・技能△ ・思考・表現・判断△ ・学びに向かう人間性△ (第5学年)	領域別 物質・エネルギー△ 生命・地球△ 観点別 ・知識・技能△ ・思考・表現・判断△ ・学びに向かう人間性△ (第4学年時)

(2) 分析

4年	正答率が、目標値を下回っている項目が多い。 ○風やゴムのはたらき、物の重さについて問う問題は、目標値を上回った。 ●「こん虫のからだのつくり」の昆虫の定義を問う問題では、目標値より 20 ポイント以上下回った。 ●「植物の育ち方」のホウセンカの観察結果を基に、ネギの育ち方を問う問題については、目標値より 20 ポイント近く下回った。
5年	正答率が、目標値を下回っている項目が多い。 ○物の体積と温度を問う問題では、目標値をやや上回った。 ●動物の1年間の様子を問う問題については、目標値より 20 ポイント下回った。

	●「自然の中の水」の水の蒸発について問う問題は、目標値より約 15 ポイント下回った。
6 年	正答率は、目標値と同等か上回っている項目が多い。 ○顕微鏡の使い方について問う問題は、目標値より 10 ポイント以上上回っていた。 ●「物のとけ方」の食塩を取り出す方法について問う問題では、目標値より 3 ポイント下回った。

3 重点課題

3 年	・予想から分かったことまでの学習の流れを児童が理解すること。 ・生活経験や既習事項を基に問題作りをしたり、予想したりすること。 ・観察・実験の結果を整理し、根拠を明らかにし、分かったことを自分の言葉でまとめること。
4 年	・一人一人の実験時間を確保すること。 ・正しい実験結果を確実に理解し、記録すること。 ・生活経験や既習事項を生かして、問題に対する予想や仮説を立て、実験に取り組むこと。
5 年	・季節ごとの動物の様子について理解すること。 ・知識の定着を確実にすること。 ・実験結果や目に見えない現象を図などで可視化することや、自分の考えを文章化すること。
6 年	・知識の定着を図ること。 ・実験結果を基に考察し、結論を導き出すこと。

4 授業改善策

3 年	・ノート指導を確実にし、分かったことまでの流れが視覚的にも分かるようにする。 ・導入時に行う活動の内容や発問の工夫により、学習する事物・現象に焦点を当てて体験したり、思考したりすることができるようにする。 ・結果から分かったことや考えたことを検討することにより、現象を伝える適切な表現を身に付けさせる。
4 年	・実験時間を十分に確保するために、見通しをもって学習を進める。 ・理科の用語が身に付いているか確認するために、テストの前にプレテストを実施する。 ・生活経験や既習事項を想起する時間を取り入れたり、手本となる児童の文章を紹介したりする。
5 年	・季節ごとの動物の様子について動画等で確認する。 ・単元の終わりにまとめプリントに取り組み、既習事項を定着させる。 ・様々な実験の予想や結果を文章だけでなく、イラストや図で表現する活動を増やしていく。また、実験の結果「分かったこと（考察）」を、個人からグループや全体へと伝えて共有し、正確な内容へまとめていくようにする。
6 年	・知識の定着を図るため、繰り返しデジタルドリルに取り組むようにする。 ・実験の前に実験結果の予想を立てて、実験の意図を明らかにする。 ・実験結果を基に考察を考える時間を設ける。考えたことを他者と共有し、正確な内容へと精度を高めていく。
全学年 共通	・一人一人が実験器具に触れる回数を増やす。 ・知識を問う問題をたくさん解き、問題に慣れさせる。 ・実験から分かったことや考えたことを書く時間を十分に確保する。 ・自分の考えを表現する力を高めるために、書いたことを交流する時間を十分に設ける。